

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																								
大阪総合デザイン専門学校	昭和55年3月31日	丸岡 宏次	〒530-0012 大阪市北区芝田2-8-35 (電話) 06-6376-2100																								
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																								
学校法人上田学園	昭和57年3月31日	上田 哲也	〒530-0012 大阪市北区芝田2-5-8 (電話) 06-6371-2022																								
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																							
文化・教養	デザイン専門課程	ビジュアルコミュニケーションデザイン学科	平成19年文部科学大臣告示第20号	-																							
学科の目的	ビジュアルコミュニケーション業界で即戦力となる知識、技術、デザイン力を兼ね備えた人材育成を目的とする。																										
認定年月日	平成26年3月31日																										
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																				
2年	昼間	1920時間	-	1920時間	-	-	-																				
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																						
120人	37人	5人	3人	12人	15人																						
学期制度	■1学期: 4月1日～9月30日 ■2学期: 10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 出席率、課題提出率、課題内容を総合評価																							
長期休み	■学年始: 4月1日～4月7日 ■夏季: 7月25日～8月31日 ■冬季: 12月21日～1月7日 ■学年末: 3月20日～3月31日		卒業・進級条件	課題・試験等に合格し、本校所定の課程を修了すること																							
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 前期、後期に担任との個別カウンセリング 長期欠席者等には、保護者との面談、補習		課外活動	■課外活動の種類 コンペ、講演会への参加  ■サークル活動: 無																							
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(平成30年度卒業生) デザイン業界、メーカーのデザイン部、WEB制作  ■就職指導内容 授業科目「キャリアデザイン」 就活支援セミナー、企業へのプレゼン、履歴書添削、文章作成力、個別相談 ■卒業生数 : 20 人 ■就職希望者数 : 17 人 ■就職者数 : 17 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 85 %  ■その他  (平成30年度卒業者に関する令和1年5月1日時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成30年度卒業者に関する令和元年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>パス検定3級</td> <td>③</td> <td>24</td> <td>22</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)  ■自由記述欄				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	パス検定3級	③	24	22												
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																								
パス検定3級	③	24	22																								
中途退学の現状	■中途退学者 10 名 平成30年4月1日時点において、在学者50名(平成30年4月1日入学者を含む) 平成31年3月31日時点において、在学者40名(平成31年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 体調不良、進路変更、学業不振  ■中退防止・中退者支援のための取組 個別カウンセリング、補習授業		■中退率 20 %																								
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ・成績優秀者特待制度・入学金免除制度・自宅外通学奨学生制度・上田学園特別制度・上田学園兄弟姉妹入学制度・留學生支援制度  ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績数について任意記載																										
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																										
当該学科のホームページURL	<a href="http://www.oscd.jp/">http://www.oscd.jp/</a>																										

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賞金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針  
 企業等と連携した実習・演習授業の内容が当該学科の教育目標達成に資するものとなるように学習課題の内容を精査し、科目間の連携や授業時間配分等を考慮しつつ実習・演習授業を構成する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け  
 校長を委員長とした教育課程編成委員会を企業等の委員、校長、副校長、教務部長、各字科長、事務統括によって組織する。年間5～6回実施する学科会議(授業を担当する専任教員・兼任教員で組織)の上部に位置し、学科会議での意見、検討事項を吸い上げ、それに対し企業・業界の有識者の方々より意見を聴取、審議。委員会で審議された内容のうち、授業内容、指導方法等は学科会議で、カリキュラム編成については教務部会議で協議し、教育課程を編成する。また改善点等については教育課程編成委員会で報告する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和元年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
明田 豊広	大阪産業創造館スタートアップチーム 起業プログラム&デスク「立志庵」 インキュベーションマネージャー	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日 2年(再任あり)	①
古川 多夢	株式会社 久宝金属製作所 代表取締役	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日 2年(再任あり)	③
越田 英喜	上田学園 学園長		
丸岡 宏次	大阪総合デザイン専門学校 校長		
原田 明彦	大阪総合デザイン専門学校 副校長		
濱本 修徳	大阪総合デザイン専門学校ビジュアルコミュニケーションデザイン学科長		
嶺 寿美江	大阪総合デザイン専門学校 教務部長		

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年2回 10月及び3月頃

(開催日時)

第1回 平成30年11月12日 10:00～12:20

第2回 平成31年3月4日 10:10～12:20

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

授業を担当する全ての講師陣が出席する学科会議で課題を抽出し、教育課程編成委員会において企業・業界・学識者で構成される委員の方々の意見を聴取し、それをもとに学科の教育目標、育成人材像について検討し、業界のニーズにあったカリキュラムを策定し、実践している。

目まぐるしく変化するデザイン業界で、即戦力として必要なスキルなどについて、委員から業界の生の声を聞く事で、カリキュラムの比重の掛け方、プレゼンテーションの重視などきめ細かな調整を行っている。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業からの要請を十分にヒアリングするオリエンテーションを実施し、学内で実施するプロジェクトを検討する機会を設定する。調査・分析し必ず問題提起するデザイン制作の根拠を探り、裏付けのあるクリエイティブな提案を、実践的な手法によって具体的に提示していく演習を実施する。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

企業から課題を頂き、担当者のオリエンテーションを受けて、企業側のニーズを正確に把握した上で制作に入る。出来たデザインをプレゼンテーション形式で見てもらい、企業からの評価及びフィードバックを受ける。企業の評価を1課題の評価として組み込み、科目の担当教員が総合的に評価する。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
-----	------	-------

商品プロデュース実習	デザイン業界のプロデュースとはデザイン表現をもって世に生み出していく仕事である。興味ある商品を手にとって、新しい商品を考えることから商品プロデュースが始まる。商品をデザインする知識・技術の基礎から学び始め、自分のアイデアで商品デザインとしてあらわすまでを実習を通じて指導する。	株式会社サンコー
プレゼンテーション実習	授業では、グループでの共同作業に始まり、情報収集、資料作成、図解化、ビジュアル要素の展開、シナリオメイキング、PCソフトを用いたデジタルプレゼンテーションを、語りのスキルアップと共にステップバイステップで習得する。	株式会社サンコー

### 3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針  
 新任～3年目の教員は、大専各主催の「新任教員研修」若しくは「人権教育研修会」の受講。その後は、各教員に専門分野・業界の動向を踏まえ、研究内容の拡充、研究成果の公表、授業への反映を実施するよう求め、人事考課のプロセス評価に組み込んでいる。産学共同、連携等で関係する企業先での実務状況のヒアリング等により、最新の情報・技術の習得を図る。  
 クラス担任を担当する教員には、近年増加傾向にある精神的疾患及び発達障がいの問題を抱える学生の指導のため、臨床心理士等による研修会を実施。

(2) 研修等の実績  
 ① 専攻分野における実務に関する研修等  
 研修名「建築パース2018展にぎわいの表現セミナー」(連携企業等: JARA )  
 期間: 9月15日(土) 対象: 専任教員1名  
 内容: 建築パースの制作手法・表現方法を習得し、専門分野における表現技術の幅を広げることで、指導力の向上を図った。

② 指導力の修得・向上のための研修等  
 研修名「平成30年度 自殺対策研修」(連携企業等: 大阪市こころの健康センター )  
 期間: 7月24日(火) 対象: 専任教員1名  
 若年者の自殺率が高い現状を踏まえて、学生の変化や兆候を早期にキャッチする力やその対応、日常の接し方等を学んだ。また、家族を自殺で失った場合の子供の理解と支援についても学んだ。

(3) 研修等の計画  
 ① 専攻分野における実務に関する研修等  
 研修名「ブランデットムービーの未来」 主催: 株式会社FROGLLOUD  
 期間: 8月21日(水) 対象: 専任教員1名  
 内容: ブランディングの世界の潮流、ショートフィルムの制作手法・表現方法を習得し、専門分野における表現技術の幅を広げることで、指導力の向上を図った。

② 指導力の修得・向上のための研修等  
 研修名「ソフ人担任と臨床心理士の事例検討会」(連携企業等: カノノゼリソフイノイハ五月山の臨床心理士、八木夫佳先生)  
 期間: 4月19日(金) 対象: クラス担任1名  
 学生カウンセリングを担当している臨床心理士に、新入生、在校生で発達障がい、その他のメンタル面での問題を抱える学生に対する対応、及び指導方法につき、事例検討を実施。担任のカウンセリング力の向上と担任自身のメンタル面での負担の軽減を図った。

### 4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針  
 学校関係者評価委員として、卒業生の代表である同窓会長、卒業生を継続的に多数採用頂いている企業代表者に加え、地域産業の振興に関する知見者が、学校関係者として「学校関係者評価委員会」に参画し、其々の立場から学校自己評価に対して評価を行う。また学校関係者評価委員から出された意見を基に、今後の学校運営・教育活動の改善を図る。

#### (2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか ・学校の将来構想を抱いているか

(2) 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営方針、事業計画は定められているか</li> <li>・情報システム化等による業務の効率化が図られているか</li> </ul>
(3) 教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学科の教育目標、人材育成像は、その学科に対応する業界のニーズに向けて正しく方向付けられているか</li> <li>・育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか</li> </ul>
(4) 学修成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職率の向上が図られているか</li> <li>・退学率の低減が図られているか</li> </ul>
(5) 学生支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職・進学指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか</li> <li>・学生の経済的側面に対する支援が全体的に整備され、有効に機能しているか</li> </ul>
(6) 教育環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか</li> </ul>
(7) 学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生募集活動は、適正に行われているか</li> <li>・学納金は妥当なものとなっているか</li> </ul>
(8) 財務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか</li> <li>・財務情報公開の体制整備はできているか</li> </ul>
(9) 法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか</li> <li>・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか</li> </ul>
(10) 社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行なっているか</li> </ul>
(11) 国際交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか</li> </ul>

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員から拝聴したご意見等をもとに、学校自己評価体制の整備、並びに各部署で今後の学園・学校運営の改善に活用している。

・教育設備、特にIT化の充実を図るため、今年度PC160台の新型への入替、入力用タブレット160台の液晶化を行い、教育環境の向上を図った。ビジュアルコミュニケーションデザイン学科においては、個人用のPCを優待価格で購入できる制度を設けた。

・入学者・保護者との連絡体制の充実が必要とのご意見に対し、AO入学者に対し、入学前教育の実施を計画中である。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和元年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
井村 良裕	オフィス・トライアド井村アトリエ 代表	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日 2年(再任あり)	同窓会 長、評議 員
鵜飼 隆	有限会社タイトルアート 代表取締役	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日 2年(再任あり)	卒業生を 継続的に 多数採用 している企 業の代表
飯田 俊子	元(公財)大阪観光局 常務理事	令和元年6月8日～ 令和3年6月7日 2年(再任あり)	地域及び 業界有識 者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(○ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ) )

URL:URL:<http://www.uedagakuen.ac.jp/>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

HP上の「企業の方へ」のページに情報を記載すると共に、年2回(5月、10月)求人依頼をする際に「求人のお願い」という冊子を、2月には成果発表となる作品展のご案内を計6000社に郵送している。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	沿革、概要・特色
(2)各学科等の教育	学科・専攻 ビジュアルコミュニケーションデザイン学科
(3)教職員	教員・講師紹介
(4)キャリア教育・実践的職業教育	就職実績、就職支援、キャリア教育
(5)様々な教育活動・教育環境	学科・専攻、概要・特色
(6)学生の生活支援	特典・サポート
(7)学生納付金・修学支援	入学手続き・学費、学費支援制度
(8)学校の財務	財務諸表
(9)学校評価	学校自己評価報告書、学校関係者評価報告書
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

学校及び学園のホームページ (1)-(7) URL:<http://www.oscd.jp/> (8)-(9)URL:<http://www.uedagakuen.ac.jp/>

補足事項:学校案内パンフレット

## 授業科目等の概要

(デザイン専門課程ビジュアルコミュニケーションデザイン学科) 2019年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			デッサン	「絵を描くこと」の基礎能力の養成を目的に、モチーフの観察、構造把握、明暗で表現することのトレーニングを行う。	1通	120	4	△	○		○		○		
○			色 彩 プ ロ デュース	日々、生活の中で何気なく感じている色について見直し、色の心理効果や配色効果について学び、感覚やセンスに頼りがちな色選びではなく、色選びに法則を与え、プロとして様々な要望に対応できる色彩感覚、コーディネーション力を習得する。コンセプトに基づき、色を調整することで対象をより魅力的に表現するカラーコーディネーションを学ぶ。	1前	60	2	△	○		○			○	
○			コンピュータ 技術Ⅰ	DIPデザインの必須スキルであるIllustratorとPhotoshopの基本操作習得を目指す。Illustratorは、基礎となるメニュー及びコマンド、ツールの使い方、パスワークや文字組みを図案の作成や演習課題、テストを通じて習得する。Photoshopは、画像補正や選択範囲、レイヤー、画像解像度など、印刷物の制作に必要な知識を演習課題に盛り込む形で指導する。	1前	60	2	△	○		○			○	
○			コンピュータ 技術Ⅱ	コンピュータ技術Ⅰで習得したスキルの強化やデザイン力の向上を目指し、応用課題を中心とした制作を行う。	1後	60	2	△	○		○			○	
○			映像デザイン	グラフィックデザインと写真の関係性、親和性について研究、表現する。表現としての写真、記録としての写真の双方に観点を置き、課題を通じて学習する。	1後	60	2	△	○		○			○	
○			プレゼンテー ション実習	授業では、グループでの共同作業に始まり、情報収集、資料作成、図解化、ビジュアル要素の展開、シナリオメイキング、PCソフトを用いたデジタルプレゼンテーションを、語りのスキルアップと共にステップバイステップで習得する。	1通	120	4	△	○		○		○		○

○		WEB プロデュース実習	WEBに関する最新の標準知識の取得とWEBマーケティングを学び、企業サイトや商品ブランディングサイト及びブランド商品販売サイトの構築のための知識と基礎技術の取得を目的としている。CMS (WordPress) を使った企業WEB制作からWordPressプラグインを利用したネットショップまでの制作のスキルを取得する。また、近年WEBプロモーションで、重要なポジションになっているSNSの制作スキルも取得する。	1通	120	4	△	○	○	○								
○		商品 プロデュース実習	商品をデザインする知識・技術の基礎から学び始め、自分のアイデアで商品デザインとしてあらわすまでを実習を通じて指導する。	1通	120	4	△	○	○	○								
○		現代広告デザイン作法	本講座では、現代の広告デザイン作法(制作手順)を通じて、情報デザインの基本を学ぶ。ケーススタディと演習を中心に授業を進める。	1通	120	4	△	○	○	○								
○		グラフィックデザイン	前期は、グラフィックデザインの現場における事例を学び、デザイン作業に必要な文章・写真・イラストやタイポグラフィ的要素の効果的な考え方・手法を理解して、表現技術を学ぶ。後期では、2年次の就職活動に大きく役立つ作品作りとして、進級政策に知り組む。各課題、一連のプロセスを実習し、コミュニケーションデザインの視野を広げていく。	1通	120	4	△	○	○	○								
○		統合実習	就活ポートフォリオにさらに作品の幅を広げることを目的に、タイポグラフィを中心としたクリエイティブ性を高めたデザイン制作を行う。	2通	120	4	△	○	○	○								
○		ブランドコミュニケーションⅡ	ブランディングにおけるビジュアルコミュニケーションデザインの理論を理解し、ブランディングに必要なデザインの資質・完成を養う。	2通	120	4	△	○	○	○								
○		プレゼンテーションⅡ	授業では、プレゼン資料の作成だけでなく、デジタルサイネージ(情報広告)を例にして、動きで伝えるアニメーションを用いた効果的なプレゼン表現手法を実習する。	2通	120	4	△	○	○	○								
○		雑誌編集デザイン実習	デザイナーの現場で頻繁にデザインされるリーフレットやパンフレット、案内書、カタログなど、企業と消費者(利用者)を結ぶ商用印刷物の制作工程を実践する。また雑誌や季刊誌などの定期刊行物、情報誌、教材なども含めた編集企画デザイン、紙面構成テクニックを習得する。	2通	120	4	△	○	○	○								





○		広告実習	この授業では、広告の全体像や役割について理解した上で、特に販売促進や集客を目的とした消費者とのコミュニケーションの手段としての広告に焦点を絞り、広告計画の立案から多様な媒体の制作を、現場の実例を踏まえながら学び身につける。	2通	120	4	△	○	○	○
○		アートディレクション実習	ひとつのテーマを文字・写真・イラスト、3つの基本要素を中心としたビジュアルへ具現化。デザインアイデアの幅を広げること、オリジナリティを追求し、広告における視覚表現を統括するための知識と能力を培う。	2通	120	4	△	○	○	○
○		デザイン関連法規	国家試験である「知的財産管理技能検定3級」の合格を目指し、知的財産法の基礎を学ぶ。「実社会で求められる」知識としての「知的財産」を「知的財産管理技能検定」の受検対策講義を通じて学修する。	2前	60	2	△	○	○	○
○		キャリアデザインⅡ	自分の職業観を自ら形成し、1年間の学習を基礎にして、職能と積み重ねた知識・技術・経験・作品を通じたスキルを就職活動に活かせるよう、デザインの専門知識の学び損ねや欠落を徹底して見直し、技術の未到達部分を補強しながら、ポートフォリオ作品を充実させていく。	2前	60	2	△	○	○	○
○		卒業制作研究	ビジュアルコミュニケーションをテーマにしたデザインの視座から、アドバタイジングデザイン、Webデザイン、エディトリアルデザイン、パッケージデザイン分野の専攻別卒業制作の立案に取り組む。各分野をテーマにしたMyプロジェクトを卒業作品とする。	2後	60	2	△	○	○	○
合計				26	1920単位時間(64単位)					

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
課題・試験等に合格し、本校所定の課程を修了すること	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。